

## I-24 震災時の集合住宅における住人間の共助に関する研究

—「被災前の近所付き合い」と「震災時の助け合い」に関するアンケート調査に基づいて—

A study on the mutual assistances between the residents in apartment houses under a damage situation

Results of a questionnaire surveys about “relationships before an earthquake disaster”  
and “assistances under a damage situation”○佐々木麗<sup>1</sup>, 山中新太郎<sup>2</sup>\*Urara Sasaki<sup>1</sup>, Shintaro Yamanaka<sup>2</sup>

## 第 1 章 序論

## 1-1. 背景と目的

東日本大震災から約 5 年、復興が進む一方で今年の 4 月にも熊本地震で甚大な被害を受けた人々が大勢いる。被災生活において、隣近所や地域全体での助け合いは非常に重要である。特に集合住宅という 1 つの建築物に多数の世帯が共存する場においては独自の助け合いや協力が見られる場合がある。その助け合いや協力の要因を明らかにすることで、自然災害に備えた住宅や街づくりに繋がる。そこで、公的機以外の隣近所や地域内での助け合いを共助と定義して、集合住宅内での共助の要因を明らかにすることを本研究の目的とする。

## 1-2. 本研究の位置づけ

村田ら<sup>1)</sup>, 朴ら<sup>2)</sup>, 中村ら<sup>3)</sup>による住人による日常交流と相互支援に対する意識の関係の研究や、茶谷ら<sup>4)</sup>による被災時の助け合いの実態とイベント参加の関係の研究がある。本研究は、近所付き合いが共助に繋がるという仮説を基に、被災前の近所付き合いの実態と震災時の助け合いの実態の関係を明らかにするものである。

## 1-3. 研究対象と調査方法

東日本大震災で被災した仙台市内の築 19 年、鉄筋コンクリート造、地上 11 階、全 43 戸の分譲マンションを対象とした。震度 6 弱、罹災証明上全壊判定、水道と電気の復旧に約 1 週間、ガスの復旧に約 1 ヶ月を要した建物である。被災前の近所付き合い 6 項目（あいさつ、立ち話、食品や物の提供や貸し借り、部屋に招待、一緒に外出、住人把握）と震災時の共助 6 項目（安否確認、避難の補助、身の寄せ合い、食品や物の提供や貸し借り、炊き出し、支援物資や水の調達）について、各項目を行っていた世帯の部屋番号に○をつける形式でアンケート調査を行った。2016 年 7 月 15~17 日に実施、配布数 35、回収数 29、回収率 82.9%である。

## 第 2 章 近所付き合いと共助の相関性

## 2-1. 分析方法

前章で示した被災前の近所付き合い 6 項目と、震災時の共助 6 項目の 36 通りの組み合わせにおいて、近所付き合いと共助の相関性について分析する。近所付き合いをしていてかつ共助も行った世帯数を x 軸、近所付き合い

いはしていたが共助は行わなかった世帯数を y 軸にとったグラフと、共助は行ったが近所付き合いはしていなかった世帯数を y 軸にとったグラフに、それぞれ回答が得られた 29 世帯について、近所付き合いと共助の相関性をプロットする。例として、被災前の近所付き合いの 1 項目あいさつと、震災時の共助の 1 項目炊き出しの相関性について図 1 に示す。

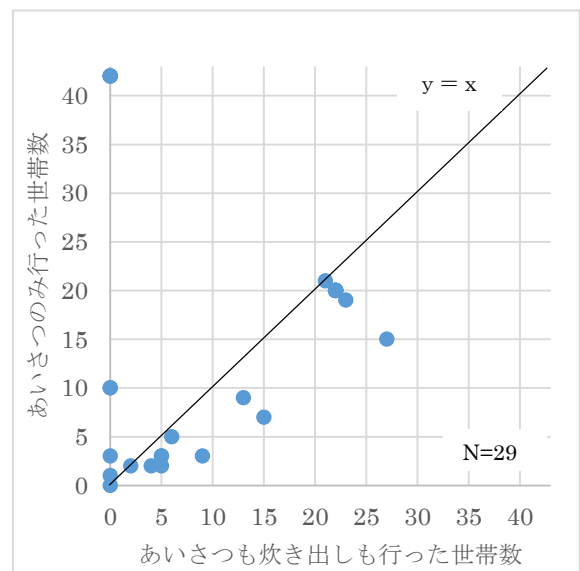


図 1. 近所付き合い（あいさつ）と共助（炊き出し）の相関性

注) あいさつも炊き出しも行った世帯数とあいさつのみ行った世帯数がどちらも 0 である世帯は 13 件である。

## 2-2. 近所付き合いがあった世帯同士の共助

近所付き合いをしていてかつ共助も行った世帯数と、近所付き合いはしていたが共助は行わなかった世帯数をプロットしたグラフにおいて、 $y=x$  直線より x 軸側に多くプロットされる、つまり近所付き合いをしていてかつ共助も行った比率が高い近所付き合いと共助の組み合わせは、あいさつと炊き出し、立ち話と炊き出し、食品や物の提供や貸し借りと安否確認、食品や物の提供や貸し借りと食品や物の提供や貸し借り、部屋に招待と炊き出し、住人把握と炊き出しの 6 通りのみであった。炊き出しという共助において、あいさつ、立ち話、部屋に招待、住人把握という 4 つの近所付き合いとの相関性が共通して見られた。

### 2-3. 共助があった世帯同士の近所付き合い

近所付き合いをしていてかつ共助も行った世帯数と、共助は行ったが近所付き合いはしていなかった世帯数をプロットしたグラフにおいて、共助を行ってかつ近所付き合いをしていた比率が高い近所付き合いと共助の組み合わせは、あいさつと安否確認、あいさつと避難補助、あいさつと身の寄せ合い、あいさつと支援物資や水の調達、立ち話と安否確認、食品や物の提供や貸し借りと身の寄せ合い、部屋に招待と支援物資や水の調達、住人把握と安否確認、住人把握と身の寄せ合いの 10 通りあった。

### 第 3 章 近所付き合いと共助の世帯数の関係

近所付き合い 6 項目と共助 6 項目の 36 通りの組み合わせにおいて、各世帯における近所付き合いしていた世帯数と共助を行った世帯数を比較した。

結果として、近所付き合いをしていた世帯数が多い世帯は、共助を行った世帯数ではなく多様な共助を行う傾向にあることが分かった。また、特に立ち話や住人把握をしていた世帯がその傾向が強いということが明らかになった。例として表 1 を挙げる。

表 1. 近所付き合い（住人把握）と共助の世帯数（一部抜粋）

	住人把握	安否確認	避難の補助	身の寄せ合い	提供貸し借り	炊き出し	調達
601	36	1	0	1	2	0	2
603	37	0	0	6	2	17	2
704	42	0	0	6	0	17	5
1102	31	0	0	6	1	17	5

### 第 4 章 位置関係による近所付き合いと共助の関係

近所付き合い 6 項目と共助 6 項目の 36 通りの組み合わせにおいて、マンションの簡略図に近所付き合いと共助の有無を表して位置関係との関連性を見る。

表 2. 近所付き合いと共助の表示

	近所付き合い(有)	近所付き合い(無)
共助(有)	◎	○
共助(無)	△	×

1102△		1101△			
1002△		1001△			
902 △		901 △			
804 △		803 △	802 △	801 △	
704 △		703 △	702 △	701 △	
605 △		604 △	603 △	602 △	601 △
505 △		504 △	503 △	502 △	501 △
405 △		404 △	403 △	402 △	401 △
305 △		304 △	303 △	302 △	301 △
205 △		204 △	203 △	202 △	201 △
		104 △	103 ◎	102 ◎	101

図 2. 101 号室の近所付き合い（あいさつ）と共助（安否確認）

例として図 2 を挙げる。色のついた部屋番号 101 の世帯があいさつをしていた世帯と安否確認を行った世帯について、表 2 に示した表示方法によって他の各世帯との関係性を表す。

結果として図 2 の結果と同様に、近所付き合いをしていてかつ共助も行った世帯が同じ階に住んでいる住人同士に集中する傾向にあることが分かった。また、近所付き合いはあいさつ、共助では安否確認で特にその傾向が強いということが明らかになった。

## 第 5 章 結論

### 5-1. まとめ

全ての近所付き合いが共助に繋がると一概には言えない。しかし、安否確認、身の寄せ合い、炊き出し、支援物資や水の調達という共助に関しては、あいさつや住人把握という近所付き合いをしていることとの相関性があることが示された。また、その中でも特に同じ階に住んでいる住人同士には近所付き合いと共助が深く結びついている。更に、近所付き合いをしていた世帯数が多い世帯ほど様々な共助を行った傾向にある。

### 5-2. 考察

以上の結果より、集合住宅においては、少数の住人同士が密接な関係を築くよりも、多くの住人同士が最低限必要な近所付き合いとしてのあいさつをして顔見知り以上の関係ができていいることの方が、集合住宅全体における共助を増やすためには有用だと考えられる。また、近所付き合いは共助の要因の 1 つであると言える。

### 5-3. 展望

類似した条件の他のマンションとの比較や、各部屋の家族構成や被害状況などを含めた考察を行うことでより有用なデータが得られると考えている。また、共助の発生の要因について、本研究とは異なる視点からも探っていきたい。

謝辞：調査にご協力くださったマンションの居住者の方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

### 【参考文献】

- 1) 村田明子, 北後明彦, 鈴木毅, 田中康裕, 山田哲弥 (2009) 「都市集合住宅のコミュニティと相互支援に関する調査研究」 pp.971-972 日本建築学会大会学術梗概集
- 2) 朴南権, 半瀬浩平, 北後明彦 (2009) 「集合住宅のコミュニティと非常時の相互援助に関する研究」 pp.673-676 日本建築学会近畿支部研究報告集
- 3) 中西弘和, 北後明彦, 中谷愛理 (2009) 「相互支援意識構築に向けたマンション内コミュニティに関する研究」 pp.65-68 日本建築学会近畿支部研究報告集
- 4) 茶谷智太郎, 齊藤広子 (2013) 「マンションにおける災害時の助け合いとイベント参加による影響」 pp.233-234 日本建築学会大会学術梗概集